



いろいろ あおいろ！



ねえさんの青いヒジャブ

ハテム・アリ 絵 イブティハージ・ムハンマド & S・K・アリ 文

野坂 悦子 訳 B L 出版 Eーア



新学期、ファイザーは青いヒジャブをつけたねえさんのアシヤといっしょに、学校へいきました。空や海のように青いヒジャブをつけたアシヤは、まるでプリンセスのようです。でも、アシヤを指さしてげらげらわらう男の子がいます。「どうして？」と思うファイザーは、ヒジャブのことをわかってくれない人もいると、ママが言っていたことを思い出しました。

ホタルイカは青く光る

阿部 秀樹 写真と文 小学館 484ーア



日本の海に、不思議なイカがいます。体にたくさんある発光器で青い光を出すことができるホタルイカです。ふだんは深海でくらしませんが、毎年春になると、産卵のため海面近くにやってきます。富山湾では、産卵を終えたホタルイカが、大量に打ち上げられてしまうげんしょうがおきます。「ホタルイカの身投げ」とよばれるこのげんしょうで、浜辺は青い光でいっぱいになるのです。

かわせみの マルタン

フェードル・ロジャンコフスキー 絵 リダ・フォシェ 文

いしい ももこ 訳編 童話館出版 Eーロ



わたしがで出あった小さな谷間の川は、世界でいちばん静かで美しく、自然のままです。ある春の朝、ウナギの子が川をさかのぼっていく光景に見とれていると、青い稲光のようなものがひらめきました。空よりも青いかわせみがこの谷間にすみつき、ときをこえ声をあげたのです。しばらくして、かわせみのマルタンは、妻を見つけ、水辺の土手に穴をほって巣をつくりはじめました。

竜の騎士



コルネーリア・フンケ 著 細井 直子 訳 WAVE出版 943-フ

竜のルングは、コボルトの少女と人間の少年といっしょに、だれも場所を知らない竜の故郷〈空の果て〉を探す旅に出ます。そこは、世界でいちばん高い山の間にあり、青い花がいちめんに咲くすばらしい場所です。旅の途中で知り合った考古学教授から、目的地を探す手がかりを聞いたルングたちは、どんな質問にも答えられる青い肌の千の目の魔神と、竜の研究家に会うため、南へ出発しました。

いろいろへんないろのはじまり



アーノルド・ローベル 作 まきた まつこ やく 富山房 E-口

むかし、せかいはいいろでした。まほうつかいは、まいあさ「よのなかなにかまちがっとう」といいました。あるひ、まほうつかいは、これとあれをちょっぴりまぜて、あおいろをつくりまします。きんじょのひとに、それをわけると、たちまちせかいじゅうがあおいろになりました。でも、あおいろはみんなをかなしいきもちにさせました。

あおい目のこねこ



エゴン・マチーセン さく・え せた ていじ やく 福音館書店 949-マ

あるとき、青い目のげんきなこねこは、ねずみのくにをみつけにでかけます。ねずみのくにがみつければ、もうおなかをすかすことはありません。たびのとちゅうで、さかなに青い目をわられても、はりねずみにみちをきけなくても、なんでもないと先へすすみます。あたりがぐらくなってもつきすすんでいると、たくさんのねこのなきごえがきこえてきました。

青いあいつがやってきた！？



松井 ラフ 作 文研出版 913-マ

転校したばかりのサトシは、まだ学校に友だちがいません。七夕の前夜、サトシは流れ星に願いごとをしました。次の日の朝、家に青いカッパがやってきて、今日一日いっしょにすごすことになります。得体の知れないものが苦手なサトシは、カッパに帰ってもらうために、すみかをさがしに出かけました。すみかが見つからないままカッパとすごすうちに、サトシはだんだん楽しくなってきました。